

# Br. Holdings Report

第11期中間報告書 | 平成24年4月1日～平成24年9月30日



株式会社 ビーアールホールディングス

Br.Holdings

証券コード:1726



## 「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、  
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。

そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、

資本効率のさらなる向上を目指すのが、

ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。

欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する

橋のイメージのデザインで統一されています。

株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。

これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。



### プロフィール

(株)ビーアールホールディングス  
代表取締役 藤田 公康  
(昭和25年9月9日生)

昭和49年 慶応義塾大学法学部  
政治学科卒業  
昭和51年 ハートフォード大学  
経営学部修士課程卒  
業(MBA)  
昭和51年 大塚製薬(株)入社 企  
画課長  
昭和56年 極東工業(株)(現極東  
興和(株))入社 取締  
役社長室長  
昭和60年 同社代表取締役社長  
平成5年 同社代表取締役会長  
平成14年 (株)ビーアールホール  
ディングス取締役  
平成17年 同社代表取締役社長  
(現任)

#### <兼職>

昭和63年 (社)広島青年会議所理  
事長  
平成2年 (社)日本青年会議所  
会頭

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第11期の第2四半期連結累計期間の決算(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社の第11期上半期の業績は、当期期首手持工事が13,515百万円と前期(13,293百万円)とほぼ同額、通年の手持工事の半額程度に止まりましたが、その粗利益率は1.6%、約240百万円程度改善しており、前年度程の厳しさはなくなりました。また、第2四半期までの6か月間の極東興和(株)、東日本コンクリート(株)の主要2社の受注は、6,994百万円と前年同期の5,962百万円に対して17%増加しております。この影響で、当上半期の売上高8,107百万円と前年同期比(5,737百万円)から41.3%の増加となりました。この結果、上半期の業績は、わずかではあります。今年5月11日に開示した中間業績予想を上回る事ができました。その為、昨年は見送らせていただきました中間配当を、今期で復配させていただきます。

この上半期は、東日本大震災の復旧・復興事業に公共事業費が重点的に配分された為、その他の地域における公共事業費は減少し、当社の主要事業である橋梁工事の受注実績は、前年同期比約15%程度減少しました。

これに対して橋梁以外の受注は、東日本大震災の復旧・復興工事が発注された事に加え、首都高速道路の大規模改修事業等、補修・補強工事が対前年比334%と約3倍に増加し、当社の主要事業である橋梁を、補修・補強や関連製品など、その他の事業が上回り、従来の比率が逆転する結果となりました。当社グループとしては、東日本大震災に係る復旧・復興事業、橋梁の長寿命化修繕計画などにも積極的に取り組み、今後とも、橋梁事業だけではなく、それ以外の分野でも技術的な貢献ができるよう努力してまいります。

下半期(平成24年10月1日から平成25年3月31日まで)の橋梁事業の動向ですが、上半期(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)は発注量が、東日本大震災の復旧・復興事業、首都高速道路の大規模改修事業などを含み、前年同期年比で40%程度的大幅な増加となりました。10月以後、その大量発注も落ち着きを取り戻し、橋梁事業中心の発注になるものと思われます。(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会の年間発注予測は、3.5%程度の増加となっており、2年連続の微増となりそうです。当社グループも下半期は本来の主要事業である橋梁事業に集中し、業容の拡大を目指して努力してまいりますので、株主様のご指導ご鞭撻を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成24年11月

代表取締役社長

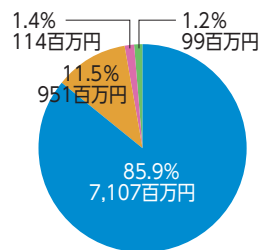
藤田 公康

### 各事業区分の主要な内容

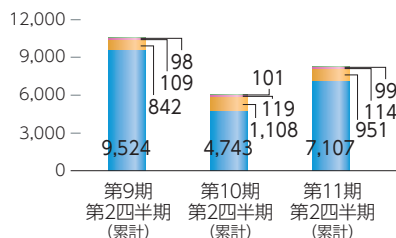
- ① 建設事業／橋梁土木工事の設計・施工
- ② 製品販売事業／コンクリート二次製品の販売
- ③ 情報システム事業／システム開発・販売
- ④ 不動産賃貸事業／当社ビルのマンション賃貸運営等

- 建設事業
- 製品販売事業
- 情報システム事業
- 不動産賃貸事業

▶ 売上高構成比



▶ 売上高推移 (百万円)



### 建設事業

売上高 **71億7百万円**  
前年同期比 **49.9%増**

建設事業におきましては、公共事業の削減による受注競争激化等、引き続き厳しい経営環境が続いております。当第2四半期連結累計期間の受注高は58億87百万円(前年同期比21.8%増)、売上高は71億7百万円(前年同期比49.9%増)、セグメント利益は1億70百万円(前年同期セグメント損失2億8百万円)となりました。



### 製品販売事業

売上高 **9億51百万円**  
前年同期比 **14.2%減**

製品販売事業におきましても、その対象は建設業界であり依然厳しい状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の受注高は15億13百万円(前年同期比0.5%増)、売上高は9億51百万円(前年同期比14.2%減)、セグメント利益は34百万円(前年同期比205.6%増)となりました。



### 情報システム事業

売上高 **1億14百万円**  
前年同期比 **4.0%減**

情報システム事業の主な事業内容であるシステム開発及び販売では、円高の長期化がもたらす製造業の業績悪化によるIT投資抑制が影響しており、依然として厳しい状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の売上高は1億14百万円(前年同期比4.0%減)、セグメント損失は4百万円(前年同期セグメント利益6百万円)となりました。



### 不動産賃貸事業

売上高 **99百万円**  
前年同期比 **2.4%減**

不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は99百万円(前年同期比2.4%減)、セグメント利益は59百万円(前年同期比1.4%増)となりました。



## Topics 01 西条陸橋〈極東興和株式会社〉

広島県発注の西条陸橋上部工事は、山陽自動車道西条IC付近に位置する国道375号御園宇バイパスの橋梁4車線化工事です。JR山陽本線を跨ぐ跨線橋区間と、その南北のアプローチ区間に分割して発注されました。当社は、北側アプローチ区間の7径間プレテンT桁橋上部工一式工事と、跨線橋区間の2径間ポストンT桁橋セグメント桁製作工事の2工事を担当しています。プレテン桁の製作は当社江津工場、セグメント桁の製作は江津工場とキョクトウ高宮(株)で行いました。架橋地点は、暫定2車線で供用している国道と、JR山陽本線、住宅地に囲まれた区域であるため、桁架設を夜間に行

うなど特に周辺環境、安全面に配慮した施工を行いました。先行施工した北側アプローチ区間は、平成24年8月、発注者から高い評価をいただいて竣工いたしました。



## Topics 02 五ヶ山ダム3号橋〈極東興和株式会社〉

本工事は、福岡県と佐賀県の県境に位置する五ヶ山ダム建設に伴う国道385号付替道路の橋梁工事です。九州とはいえ冬季には-6℃まで気温が下がり積雪もある地域です。本橋

は、3径間ポストンT桁橋で、1本約150トンの主桁12本を当社の大分工場にて製作し、運搬・接合・架設を行いました。下り6%の架設勾配、大型桁、狭いヤード、積雪等の条件で難易度の高い桁架設となりましたが、当社が蓄積してきた架設技術を駆使して、計画通りに架設を完了しました。また、来年の供用開始に向けて複数の業者が競合しての施工となりましたが、業者間の調整・連絡を密に行い、平成24年9月に無事故・無災害で完成しました。



### Topics 03 南鍛冶町こ線橋〈東日本コンクリート株式会社〉

南鍛冶町こ線橋は、仙台市都市計画道路の一部でJR東北本線と東北新幹線を横断する高架橋（こ線橋）です。本橋は、PC5径間連結床板橋（セグメント桁）の内、JR東北本線を跨ぐ3径間の施工を仙台市からの委託工事としてJR東日本より発注されました。

セグメント桁は仙台市発注で当社が受注生産を行い、現場に納入しました。架設方法は、吊下げ式の架設桁架設方式を採用しましたが、上には東北新幹線、下にはJR東北本線といった制約があるため架設計画を綿密に繰り返し検討を行いました。結果、新幹線と架設桁との隙間は最小1cmと計画通りに架設完了できました。



### Topics 04 16号橋本陸橋補修工事〈極東興和株式会社〉



橋齢30年以上の橋梁は、コンクリート床版の損傷が進行している例が多く、神奈川県相模原市に位置する橋本陸橋もその一つです。橋本陸橋は、昭和47年に建設されたJR横浜線を跨ぐ陸橋で、JR橋本駅に近いことも車両、歩行者、自転車の交通量が非常に多く、周辺は民家に囲まれています。発注者から難工事指定された本工事において、当社は損傷した床版をアンダーデッキパネル工法で補修しました。この工法は、荷重の増加や床版厚不足により損傷したコンクリート床版下面を、鋼製パネルで補強する工法です。アンダーデッキパネル工法の採用・施工により、橋本陸橋は機能を回復し、関東圏有数の重交通を支えています。

### Topics 05 国道54号新交通落橋防止装置設置工事〈極東興和株式会社〉

「アストラムライン」の愛称で呼ばれる広島新交通1号線は、広島市中区から同市安佐南区に至る延長18.4kmの新交通システム路線です。この路線は、阪神・淡路大震災以前に施工されているため現在の耐震基準を満たしておらず、高架区間の耐震性の向上を目的として、変位制限構造を含む落橋防止装置の変更設置などの耐震補強が実施されています。「国道54

号新交通落橋防止装置設置工事」では、駅舎を含む白島地区及び牛田地区、中筋地区の3工区7橋脚において、供用中の道路上空で変位制限構造と落橋防止装置を設置しました。



## 補修事業への取り組み

現在、わが国には約15.7万の橋梁が道路・鉄道等に利用されていますが、このうち建設後50年以上が経過した橋梁は全体の約9%です。橋梁の高齢化現象は今後も進展し、橋齢50年を超える橋梁は10年後には約28%に、20年後には約53%に達します。また、これらの中には、現在の耐震基準を満たしていない橋梁も多く、昨年の東日本大震災では、未補強の構造物が激しい損傷や倒壊などの被害を受けました。橋梁を維持管理する国土交通省や地方自治体、高速道路(株)などは、老朽化が進む橋梁の補修・補強・更新を進めており、構造物の補修予算は近年大幅に増加しつつあります。

このような社会環境の中、当社グループでは傘下の建設会社である極東興和(株)、東日本コンクリート(株)を中心に橋梁補修事業へ経営資源を投入し、わが国の社会資本ストックの維持や長寿命化に貢献しています。その結果、補修工事の実績や施工法のバリエーションは年々増加し、平成24年3月期における補修分野の売上高は前期比2倍となりました。中でも、狭隘地で杭を造成し構造物の基礎補強が可能な「マイクロパイル工法」や、コンクリートの塩害やアルカリ骨材反応を根本的に補修する「亜硝酸リチウム高圧注入工法」といった補修・補強分野における独自技術は、受注量が飛躍的に増加しつつあります。

当社グループは、今後も橋梁構造物の維持・更新事業を将来の中核事業ととらえ、この分野において要求される技術の蓄積や新技術の開発を推進しながら、社会資本整備に貢献していきます。



マイクロパイル工法  
鉄道に隣接した狭隘地での杭施工



亜硝酸リチウム高圧注入工法  
コンクリート構造物への薬液注入状況

### ▶ 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期末 平成24年9月30日	前期末 平成24年3月31日
流動資産	8,081,220	7,975,942
固定資産	4,232,473	4,332,051
有形固定資産	3,649,464	3,642,172
無形固定資産	75,766	82,860
投資その他の資産	507,242	607,017
資産合計	12,313,693	12,307,993
流動負債	10,723,038	10,289,592
固定負債	840,885	929,835
負債合計	11,563,923	11,219,427
純資産	749,769	1,088,565
負債及び純資産合計	12,313,693	12,307,993

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



### POINT

#### 四半期連結貸借対照表

総資産は123億13百万円となり、前連結会計年度末比5百万円の増加となりました。その主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が8億58百万円減少したものの、棚卸資産が5億95百万円、現金預金が2億66百万円増加したこと等によるものであります。有利子負債は17百万円増加し、45億55百万円となりました。純資産は、四半期純損失2億73百万円の計上及び株主配当金32百万円の支払を実施したこと等により、前連結会計年度末比3億38百万円減少の7億49百万円となりました。



## ▶ 四半期連結損益計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日	前第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日
売上高	8,107,869	5,737,783
売上原価	7,364,978	5,380,935
売上総利益	742,891	356,847
販売費及び一般管理費	891,017	916,243
営業損失(△)	△148,126	△559,396
経常損失(△)	△258,628	△669,116
四半期純損失(△)	△273,561	△681,929

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日	前第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	320,026	332,331
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87,773	△82,579
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,113	△480,566
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	216,096	△230,814
現金及び現金同等物の期首残高	1,229,451	1,350,528
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	759	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,446,307	1,119,714

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## POINT

### 四半期連結損益計算書

売上高は81億7百万円（前年同期比41.3%増）、営業損失は1億48百万円（前年同期 営業損失5億59百万円）、経常損失は2億58百万円（前年同期 経常損失6億69百万円）、四半期純損失は2億73百万円（前年同期 四半期純損失6億81百万円）となりました。



## POINT

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の残高」は、前連結会計年度末に比べ2億16百万円増加し、14億46百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は3億20百万円の獲得（前年同期は3億32百万円の獲得）、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は87百万円の使用（前年同期は82百万円の使用）、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は16百万円の使用（前年同期は4億80百万円の使用）となりました。

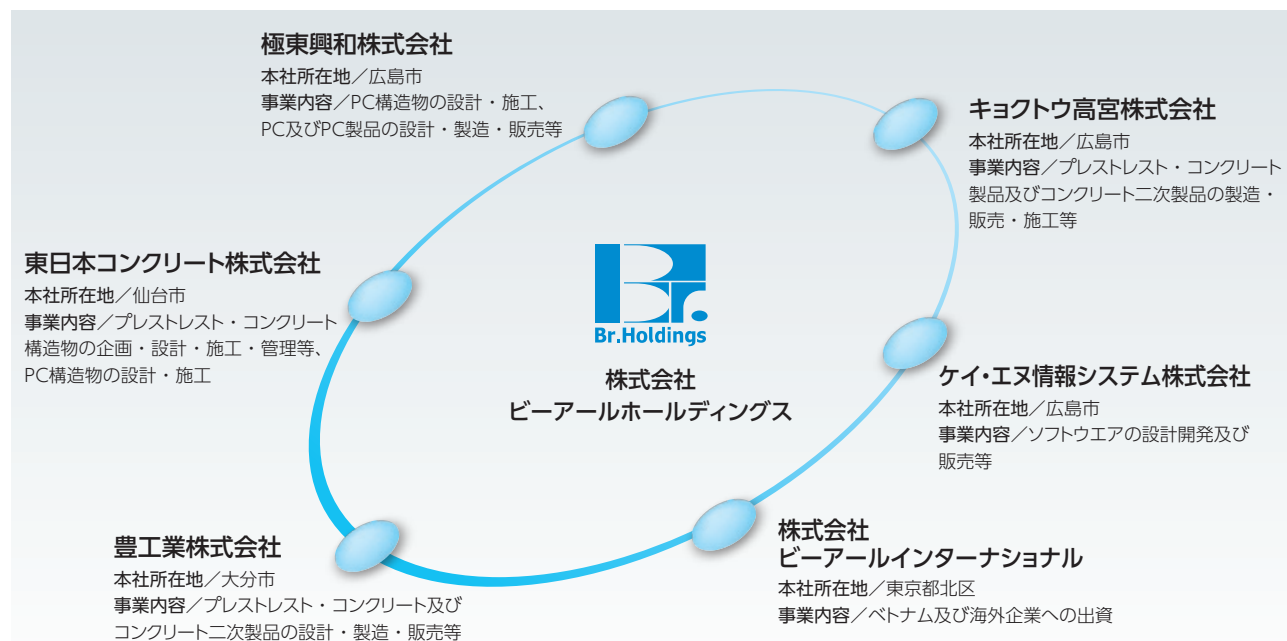
### ▶ 会社概要 (平成24年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	8名

### ▶ 代表者及び役員 (平成24年9月30日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	長谷部 正和
取締役	土屋 英治
取締役	大田 光英
常勤監査役	天野 敏彦
監査役	青砥 悟
監査役	小田 清和

### ▶ グループの概況 (平成24年9月30日現在)



※平成24年4月1日付にて、東日本コンクリート(株)と(株)構造テクノは、東日本コンクリート(株)を存続会社とする吸収合併を行いました。

# 株式の状況

## Stock Information

### ▶ 株式の状況 (平成24年9月30日現在)

発行可能株式総数 ..... 30,000,000株

発行済株式の総数 ..... 8,620,000株

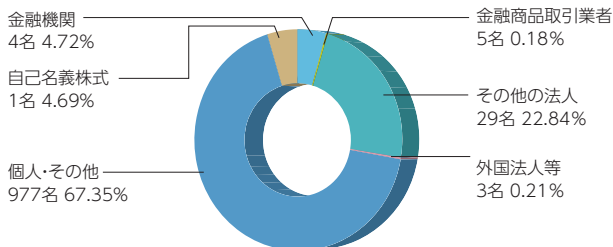
株主数 ..... 1,019名

大株主(上位10名)

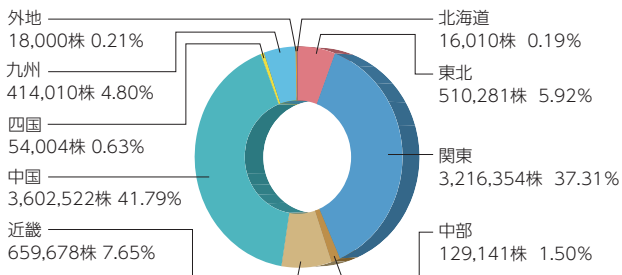
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300 (千株)	15.82 (%)
藤田公康	717	8.74
ビーアールグループ社員持株会	471	5.74
極東工業広島支部取引先持株会	324	3.94
極東工業大阪支部取引先持株会	253	3.08
広成建設株式会社	247	3.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.43
藤田衛成	186	2.26
遠藤祐子	185	2.25
藤田雄山	185	2.25

(注) 持株比率は自己株式(404千株)を控除して計算しております。

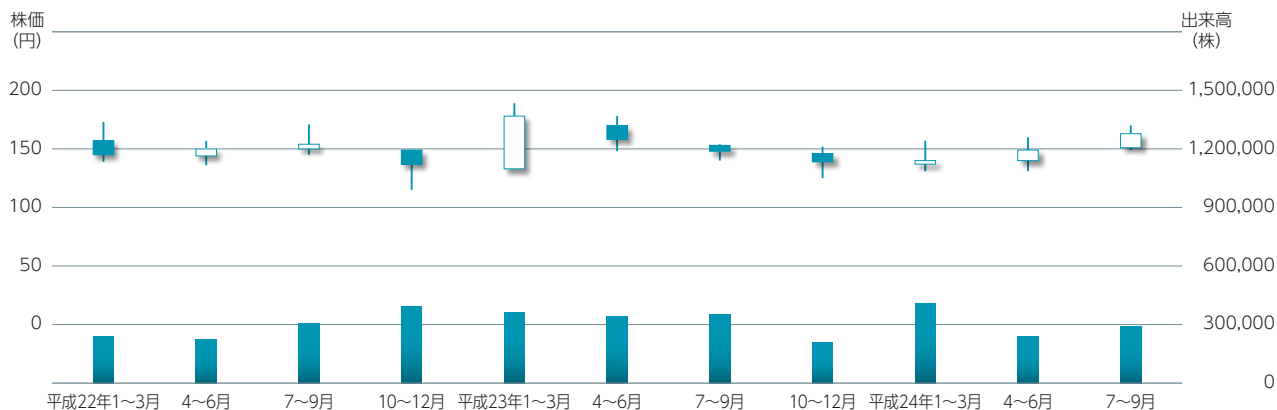
### 所有者別株式分布状況



### 地域別株式分布状況



### ▶ 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ ( <a href="http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html">http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html</a> )にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

## 表紙写真について

### 夜須高架橋 (極東興和株式会社)

本工事は、高知東部自動車道の一部として計画された高知県南国市と安芸市を結ぶ延長21kmの南国安芸道路の橋梁工事で、高知県香南市夜須町に位置しています。7工区に分割発注された夜須高架橋のうち、今回当社が施工したのは県道上を含むPCコンポ橋の工区で、当社大分工場にてセグメント桁を製作しています。県道上空での作業を伴うことに加えて、現場周辺は住宅地かつ農業が盛んな地域である為、安全及び周辺環境には特に配慮して施工を行いました。



完成写真



施工中写真



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

